

空軍ニュース：南京戦区が対台湾爆撃機部隊を強化

漢和防務評論 20160104 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

台湾総統選挙は予想通りの結果になりました。かつては総統選挙に際し中国が軍事的威嚇を以て圧力をかけてきたものですが、今度ばかりは表立った動きは見られませんでした。

今回は南シナ海埋立問題で国際的非難を受けている最中ですので、あからさまな行動は採れなかったものと考えられます。しかし対台湾作戦が後退したのではなく、台湾攻略計画は着々と進められています。

中国空軍は、南京郊外六号に 3500m 級の新たな飛行場を整備し、巡航ミサイル搭載の H-6H 型爆撃機を進駐させました。今後は、さらに最新型の H-6K を同基地に配備するものと見られます。

KDR 平可夫香港特電：

中国軍は、“対台湾軍事闘争準備”を露骨に加速している。南京の六合空軍基地は、狭隘な南京大校場空軍基地に代わり、新たな爆撃機基地となった。H-6H 爆撃機を装備する第 10 爆撃機師団は、六合基地への進駐を開始した。



六合空軍基地

東シナ海及び日本領空に頻繁に接近する H-6H は、南京及び安慶を離陸した機体である。また第 10 爆撃機師団は H-6K 型戦略爆撃機の装備を開始した。KDR が独自に入手した情報によると、第 10 師団は、現在少なくとも 11 機の H-6K を装備しており、中国空軍で最も重要な戦略爆撃機部隊となっている。

六合空軍基地の滑走路長は 3500 M であり、耐圧強度が高められた。このことから、この基地に新時代の H-6K 戦略爆撃機が進駐するものと KDR は判断している。なぜなら、H-6H の駐屯する飛行場の滑走路長は、全て 2500 乃至 3000 M しかないからである。弾薬庫の外形から判断すると、この基地にはかなりの種類の弾薬が貯蔵されているようだ。同基地は 3 個の大型燃料タンクを保有し、かつ偽装されている。

最も注意すべきことは、3+1 個の大型格納庫が建設されていることである。このことは、KJ シリーズの早期警戒機及び” 高新技術” 航空機が、今後頻繁に台湾海峡及び東シナ海に進出し日本及び台湾を偵察することを意味する。

無錫にはすでに 13 機の KJ-2000、KJ-200 及びその他 Y-8、Y-9 シリーズの” 高新技術” 航空機が配備されている。このことから、対台湾作戦準備が大々的に強化されていると見ることができる。” 空警 (KJ)” シリーズ機の格納庫の大きさを詳細に分析すると、六合基地にどのような偵察機が進駐してくるかが予想できる。KJ-2000 の格納庫の長さは 67 M、幅 69 M である。KJ-200 の格納庫の長さは 52 M、幅は 55 M である。六合基地の 3 つの大型機格納庫の長さは 43 M、幅 44 M である。そのほかに大型の格納庫が 1 個あり、整備用格納庫或いはその他の” 高新技術” 航空機用と見られる。長さが 78 M、幅が 73 M ある。

H-6H (轟-6H) の軍内名称は、KJH-6H である。主要装備は、K/AKD-63 型空対地巡航ミサイルである。同ミサイルは、無線電指令+テレビ誘導であり、相当大型で、先進型ミサイルとは言えない。2002 年に初めて登場し、中露聯合軍事演習中に出現した。有効射程は 180 KM、最大動力射程は 40 KM である。長さは約 7 M、重量は 2 トン、弾頭重量は 500 KG である。このミサイルは、1999 年、中台関係が悪化した後、台湾攻撃のために開発された短距離空対地ミサイルである。爆撃第 10 師団が大量に装備している。大型の H-6H は、通常 2 発の KD-63 を搭載する。軍の広報誌「解放軍画報」は、かつて写真と説明文を掲載した。説明によると、KD-63 は、” 敵の指揮所を精確に攻撃できる空対地ミサイルである” とあった。H-6H は、今後どのように改修されるのか？特に、旧式の KD-63 に替えてどのような新型巡航ミサイルを搭載するのか？注目しなければならない。

以上